



150th Anniversary

三重県誕生
150周年

過去から学び、平和をつなぐ

戦争



150周年の歴史を詳しく見る

1894年
日清戦争

1904年
日露戦争

1914年
第一次世界大戦

1939年
第二次世界大戦

1941年
太平洋戦争
三重県内の各都市が空襲に見舞われ、多くの命が失われ、市街地は焼け野原となる。

1945年
終戦



空襲を受けた津市の市街地(写真撮影:太田金典)



戦時中の婦人会の防空訓練(写真提供:四日市市立博物館)



焼け野原になった津市の市街地(写真撮影:太田金典)

過去から学び、平和への想いを未来へつなぐ Peace for the Future

三重県もまた、戦争によって深い傷を負った歴史があります。特に太平洋戦争末期には、津市と四日市市をはじめとする県内の各地域が、大規模な空襲に見舞われました。

津市では、空襲により市街地の中心部の約73%が焼失し、40,000人以上が犠牲※1となりました。また、四日市市でも市街地の約35%が焼失し、約800人の尊い命が失われました※2。空襲や食料不足などにより、自身や家族の命、生活の基盤を理不尽に奪われた人々がいたこと、戦後の復興に尽力された人々がいたことを私たちは決して忘れてはいけません。

2025年(令和7年)、戦後80年を迎えました。今もなお世界で戦争が起きている現実をしっかりと見つめ、過去の悲劇を教訓として心に刻み、平和への想いを次の世代につなぐために、私たちに何ができるのかを考える必要があります。

出典元 ※1 津市史 ※2 四日市市史



食糧難当時の干し芋作りの様子
(写真提供:個人蔵 亀山市歴史博物館提供)



亀山実業学校軍事教練
(写真提供:亀山市歴史博物館所蔵)



出征前の家族写真
(写真提供:亀山市歴史博物館提供)



旧北伊勢陸軍飛行場掩体(鈴鹿市)



沖縄にある三重県出身の戦没者を
祀る三重の塔(沖縄県糸満市字摩文仁)



陸軍第七通信連隊一二八部隊 防空壕(明和町)



平和の礎(菟野町)

子どもたちの目に映る平和 Peace Reflected in Children's Eyes

戦争を実体験として語り継ぐことが年々難しくなるなか、三重県では戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代へ伝えていくための多彩な取り組みを続けています。未来を担う子どもたちをはじめ、多くの県民の皆さんが平和について学び、考える機会を広げることを大切にしています。

2025年(令和7年)の戦後80年の節目には、中学生による合唱や高校生、戦争体験者らによるトークセッションなどさまざまな催しが行われました。次世代が中心となった取り組みを通じて、参加者同士が平和の大切さを共に考え、受け継ぐ場がつけられています。

そして、私たちはこれからも、戦争の記憶を風化させることなく、平和を大切にし、その想いを未来へとつないでいきます。



「戦後80年平和のつどい」 高校生、戦争体験者らによるトークセッション



「戦後80年平和のつどい」 中学生による合唱